

はじめに

2019年半ばに入会させていただきましたが、途中新型コロナウイルス感染症騒動もありご挨拶が遅れました(すっかりベテラン会員面をしております恐縮であります)。

どうも色々な趣味に手を出し過ぎているようで、全てが中途半端に終わっているように感じる今日この頃です。

**読書。** 図鑑を絵本代わりにしていた幼少期。不眠症を克服するために敢えて硬い本に沈潜した青年期。そして興味の赴くままに複数の本を並行して読み進めて収集が付かなくなっている昨今。加えて老眼の進行の容赦ないことといたら…。

**自然観察。** 特に所謂「バードウォッチング」。国内で300種以上は観察しているので、先ずは一人前扱いしていただけるのでしょうか。でも、最近重い機材を担いで野山や海浜を駆け巡るのはどうにも億劫です。

**カメラいじり。** これは大変にコストパフォーマンスの悪い行為かと。加えて撮影した後のフィルム整理が苦手で、写真はほぼ散逸状態。

**相撲見物。** とは言え後援会に入って力士や相撲部屋をサポートするほどの甲斐性は無し。40年近く前に亡くなった母方の祖父は、準地方巡業だったころの名古屋場所で勧進元を引き受けたり、地元中学の校庭に土俵を寄贈したりした、本物の「タニマチ」でしたが。

**阪神タイガース狂い。** これは最早病膏肓に入っているような。今年は38年ぶりにアレのアレをしたので大変な騒ぎでしたが、専らテレビ観戦専門で聖地阪神甲子園球場には滅多に行けません。

**神輿担ぎ。** 30代後半に神輿同好会を立ち上げて関東各地に遠征。神田祭や浅草三社祭にもほぼ皆勤していました(一時期、浅草には出禁になっていましたけど…)。50代前半まで会の代表を務めていましたが、昨今は体力的に厳しくなってきました。

**エアロビクス。** 演じている姿は脂汗ものなのでノーコメントとします！(股関節と腰を傷めて事実上の引退状態ですが、全盛期には週3~4回のペースでジムに通っていました) 等々。



神輿同好会を立ち上げた頃

一つのこと専念していれば、或いはその道の権威になれたかもしれません。どうも時間の無駄遣いが過ぎたようです。

そんな中で、音楽鑑賞(LPレコード・CD等での)は比較的長い期間続けられた趣味であると自負しています。ただ、コンサートホールには通わず、録音のみで演奏を語るの「干物や缶詰のみを食べて魚の味を語る」と同じ、いささか倒錯した趣味であることは重々承知しています。そこはご容赦いただきまして、まずは収集事始めの10代後半に印象深かったレコードについて書いてみたいと思います。

## その1 ヴィヴァルディ「四季」

フェリクス・アーヨ(Vn.)イ・ムジチ合奏団(Philips Rec.1959)。

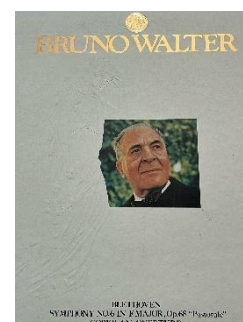
確か1972年末(中学3年生)に、初めて自分のお小遣いで買ったレコードと記憶しています。言うまでも無くこの曲を世界的人気曲にした1枚です。イ・ムジチ合奏団はこの後リーダーが変わる度に再録音を繰り返しますが、この盤を超える完成度に達したものは無かったように思います。如何でしょうか？(同じアーヨがイ・ムジチ結成直後の1955年に録音したモノラル盤が、音質はともかく演奏自体はより若々しく、また充実したものだと知ったのは、かなり後になってのことでした)



## その2 ベートーヴェン「田園」

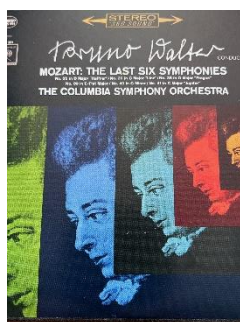
ベートーヴェンの交響曲のレコードを初めて買ったのは、1973年春(高校1年生)に、フルトヴェングラーがウィーンフィルを指揮した第3番「英雄」のEMI盤(東芝Angelの疑似ステレオ Rec.1952)でした。世評は高かったのですが演奏はともかく、どうにもモヤモヤした音のするレコードで細部が聞き取りにくく、楽しめない気分でした。

同時期に、第6番「田園」のワルター/コロムビア交響楽団のステレオ盤(CBS-SONY Rec.1958)を初めて聴いた時の感動は今も忘れられません。昨今はずっとクールに演奏するのが流行っているようですが、私は現在に至ってもこのカロリー満点の演奏を一押しと考えています。録音現場ではオケとの軋轢等色々あったようですが、速めのテンポで全曲を通して歌に溢れ、休符に至るまで意味を感じさせる、正に絶品です。



## その3 モーツァルトの40番

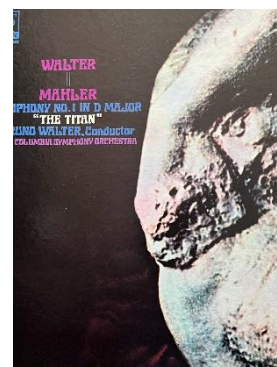
その直後、同じワルターの演奏(コロムビア交響楽団、CBS-SONY Rec.1959)で、モーツァルトの交響曲第40番を聴いた時、第1楽章主題再現部の半ばで「アレツ？」と感じた瞬間がありました。後になって、これが有名な「ワルターのルフトパウゼ(一時休止)」に出会った最初の体験だと知りました。他の演奏家が真似をしたら、とんでもなく野暮ったい演奏となってしまいそうですが、ワルターの手にかかると実に「麻薬的な」効果を生んでいます。その後、他の演奏家の第40番の演奏を聴いても「何かが違う」「物足りない」など感じるようになってしまいました。



## その4 マーラー「巨人」

高校で知り合った、クラシック音楽を語り合える諸先輩は皆マーラーに夢中の様子でした。少々背伸びをした気分が私が購入したのが(当時既にぞっこんの最頂となっていた)、ワルター/コロムビア交響楽団(CBS-SONY Rec.1961)でした。周囲では、バーンスタインとかクーベリックとか、もっと新しい録音のものを評価する声が高かったようでしたが、そこは「我が道を行く」でした。

これが実に素晴らしい！音符の一つ一つまで手の内に入れてしまったような、「古典的な意味で完璧」とでも呼ぶべき絶対的な名演でした。高校1年の夏休み期間中は、ほとんどこの1枚だけを続けて聴いて過ごしたような記憶があります。



その後、「大地の歌」や第 9 番交響曲の深淵に触れることになるのは、暫く時間が経過してからのことでした。

### その 5 ブルックナー「ロマンティック」

カラヤン/ベルリンフィルが EMI で録音した交響曲第 4 番「ロマンティック」(Rec.1971)を聴いたのは高校 2 年に進級した頃だったでしょうか。実に官能美の極地と申しましょうか。「ここまでオーケストラの音を磨き上げることが可能なんだ！」と妙に感心した次第です。でも、何かが足りないような。田舎親父で変人のブルックナー先生は、果たしてあのような流麗な響を望んでいたのだろうか？その謎は、後年にクナッパーツブッシュ/ウィーンフィル(LONDON Rec.1950 年代のモノラル盤)の豪快な演奏や、インバル/フランクフルト放送交響楽団(Teldec Rec.1982)の初稿による CD 等の演奏を聴くことにより解明されることとなりました。反面これは、ブルックナー独特のエディション問題(作曲者本人の改訂癖、正統性の怪しい改訂版、更には複数存在する原典版、等)の泥沼に引きずり込まれる原因でもありました。その沼からは未だに這い上がることが出来ていません。



### その 6 ライヒとケージ

在学していた高校は普通科の他に音楽科がありました。3 年に進級した頃から何となく音楽科の鑑賞室(タンノイのレキュタンギュラーヨークが鎮座していました！)に出入り自由になっていたのは、当時音楽科の主任教諭の T 先生(後には地方大学の教授に転じられました)に目をかけていただいたお陰でしょうか。先生からは常々「(西洋音楽は)バッハ以前、ドビュッシー以後の音楽も心して聴くことが肝要だ」との教えをいただいていた。

そこで、購入したのがジョン・ケージのスリー・ダンスイズ(プリペアド・ピアノのための)とスティーヴ・ライヒのフォー・オルガニズを組み合わせた 1 枚(EMI Rec.1972 頃?)。

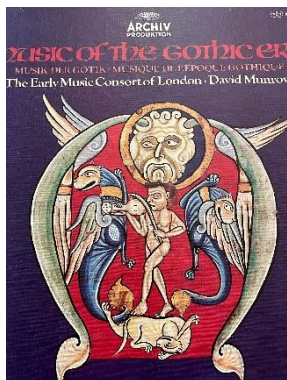
かたやケージは、ピアノ曲「4 分 33 秒」がやたらと有名でしたが、やはり音の鳴る曲でなければ録音は出来ません。珍妙にも聞こえるプリペアド・ピアノの音色の彼方から、実にリカルなケージ自身の心象風景が見えてくる佳曲でした。



此方のライヒは、この少し前の NHK-FM の深夜放送でテリー・ライリー(現在は日本在住)等と併せて紹介されていました。単純な音型の繰り返しから音楽を紡ぎ出す、所謂「ミニマル・ミュージック」の泰斗です。この LP を一聴して、私もミニマリストと化してしまいました！

### その 7 デヴィット・マンロウの衝撃

さて、「バッハ以前の音楽も聴いてみよう」と思っていた矢先、若手古楽器演奏者としてそろそろ有名になりつつあったデヴィット・マンロウ(1942-1976)の訃報が伝えられました。何だか焦りまくって彼の残された LP を買い漁ったように記憶しています。どれを聴いても感銘深いものばかりだったのですが、代表作はやはり 1 年後にリリースされた「ゴシック期の音楽」(Archiv Rec.1975)ということになりましょうか。バッハどころか、その遙か以前の中世ヨーロッパで和声音楽が成立しようとしていた時代の合唱曲集。そしてその楽譜解釈と演奏は、当時人気のあったグレゴリオ聖歌の、ソレム修道院合唱団のロマン派的な演奏様式に対する強烈なアンチテーゼとなるものでした。「古雅」という言葉はこの演奏のためにあると、現在に至っても確信しています。



1977年春、大学進学のため東京での一人暮らしが始まりました。モンテヴェルディやコレツリ的美しさに目覚めたのはこの頃だったと思うのですが、なかなかお小遣いが自由になりません。おまけに下宿では大音量の鑑賞もままならず、専ら大学図書館の視聴覚室に通い詰めていました。LP収集も一休みといったところでした。

ここまで書いてきたところで、頭もキーボードを打つ手も疲れてきました。この先のお話はまたの機会にさせていただきます。

最後に一言、「私は決してコレクターじゃありませんからね！」お後がよろしいようで。



志摩観光ホテルにて朝食  
(サミット参加者気取りで)



お酒を呑むのは  
趣味というよりも「仕事」!

